

できるんじゃないかと。

あと、これから住宅なんかも傷むわけですよ。だけど、お年寄りだけの世帯なんか新しくなんか、なかなかそんなお金ないと。だったら、首都圏とか都会に行った子供たちが、じゃあ、何か直す、冬で傷むだろうから、5万円の、何ていうんですかね、整備費みたいな、そういうものを地元でやってもらえれば、ふるさと納税の返礼品になるんじゃないかと。そういうものみんなで声かけて、少しずつ、それこそ2万円、3万円の積み重ねだけでも、そういうふうにして、その本人たちも助かるし、市に半分は来ますから、その財源でより充実したきめ細かなサービス向上できるんじゃないかと、声を上げて、今各課で検討してもらっています。

ただ、総務省の縛りもあって、あとそれを実際商品化して広めていくには半年やそこらじゃ無理なんで、1年、2年かかりますけども、こういうふうにして地道なことをやっていくしかないかなと考えていますので、ぜひより充実するための提言など、大変私どもとしてはありがたいと思っていますので、お寄せいただければと思います。長くなってすみません。

○内谷邦彦議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 質問外でしたけども、ご答弁いただきまして、ぜひ力を入れて、私たちも何かいいアイデアがないかなと、いつもいろんな全国の事例なども見させていただいて、ぜひそういうものを広めていただければなと思っていますので、市庁舎建設などとおっしゃいましたけども、これはみんな、本当に公共施設建設は市民のために貢献したものだと思います。それが負担というか、財政を圧迫しているということは事実ですけども、やはり市民に貢献したものですから、それを否定することはありませんので、ぜひ市民に還元するという意味で頑張っただいただければなと思っています。

国でも、重点支援交付金というんですかね、

増額してというか、そういうふう到高市首相も言っておりますので、ちょっと大きな金額が来ることを期待しておりますけども、その中で、いろいろ要望しています、先ほど市長もおっしゃいました補聴器とか、そういうものなどにも使わせていただければなど。給食費まではちょっと難しいかなと思いますけども、そういう点も含めていろいろと考えて市民のために貢献していただければなと思っていますので、またよろしく願いいたしたいと思います。

ありがとうございます。質問を終わります。

○内谷邦彦議長 ここで暫時休憩いたします。再開は午後1時とします。

午後 0時01分 休憩

午後 1時00分 再開

○内谷邦彦議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行します。

### 梅津善之議員の質問

○内谷邦彦議長 順位8番、議席番号14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 お疲れさまでございます。12月定例会、最後の質問になりました。いましばらくお付き合いいただきたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

私からは、まず1点目、今年度開催されました長井マラソン大会についてということで、1点目の質問から入らせていただきます。

今年から白つつじマラソンがなくなって、長井マラソン大会の中で、ハーフ、フルマラソン

コースとともに、1キロコース、2キロコース、4.2195キロと、新しく新設されたコースがマラソン大会の中で開催されました。参加者の状況、さらには、運営自体の課題などあれば、健康スポーツ課長からお願いしたいと思います。

○内谷邦彦議長 菊地千賀健康スポーツ課長。

○菊地千賀健康スポーツ課長 お答えします。

今年度の大会から、春に開催していた白つつじマラソンと長井マラソンを一体的に運営し、これまでのフルとハーフの種目に新たに短距離種目を加え、リニューアルした大会で10月に開催しました。また、年齢や性別などの枠にとらわれない形で参加できるように、新たに短い距離のランニングやファミリーで参加できる種目を設定し、市民がスポーツ参加への興味、関心を持ち、スポーツを通じた健康づくりの充実を図ることができるような大会となるように実施したところでございます。

参加者数は、総数で昨年大会の682人を上回る1,062人となっております。出場種目別には、フルマラソンは724人、ハーフマラソンが205人、約4キロのファンランは35人、2キロのエンジョイランは33人、1キロのファミリーランは65人でした。

大会運営につきましては、長井マラソン実行委員会を組織し、実行委員会の構成団体、市職員、市スポーツ協会、陸上競技協会、交通安全協会などを中心に、中高生のボランティアにも協力をいただいております。

出場された方の声としては、ランナーサービスの充実などを受け、申込サイトのレビューや参加者アンケートの結果からは、満足度が昨年を上回る87.3点が出ております。100点をつけてくださった参加者からは、初参加でスタート前からフィニッシュ後までストレスを全く感じませんでした。適切な参加人数、走りやすいコース、こなれた大会運営、地元の皆様の応援、タンザニア選手団との交流、どれを取っても

100点満点です。まさに奇跡のような大会、また参加しますなどの声がありました。褒めていただいた部分は来年度も継続できるようにしてまいります。

来年度に向けての課題につきましては、来年2月に第3回長井マラソン実行委員会で協議していく予定であります。

なお、今年度から短距離3種目を増やした大会となりましたが、フィールド内で同時のスタートでしたので、北に向かうエンジョイラン、南に向かうファンラン、フィールド内を走るファミリーランの分岐点でうまくランナーを誘導できないことなど至らぬところがありましたが、今後のコースの見直しと、どのようにすれば市民の参加が増えていくのか、また、沿道の応援してくださる方が増えるのか、検討してまいります。

○内谷邦彦議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 評価も大変よかったという話でございますし、私が今回すごく気になったのは、1キロ、2キロ、4.2195キロのコースが新設されたところでございます。当日、交通安全協会の立場で置賜生涯学習プラザ西側の十字路に立たせていただいております。業者の方といいますか、誘導員の方も、警察の方も時折見えられて指示をいただいたところでございますけれども、それぞれ多くの方が携わられて大会が開催されたものと思っておりますし、ボランティアの方であったり、陸上競技協会の方、中学生や高校生のボランティアの方、その他の方々が多く参加されて、もちろん市役所の職員も含めてご苦労だったなと思っておりますし、参加された方の声がよかったというのが非常にほっとするところでございますが、誘導員の方が、右折、左折、たまたま私がいたところがそういうところだったからかもしれません、選手の方は何で右からいっちゃうのかなという話を私にされても、私も困るなと思ったんですけど

も、段取りの段階で何回か打合せ等をしていただいていると思いますけども、大本の団体の方の打合せの中に、誘導員の方に細かく誘導できるような指示を、末端まで行くような案内などがあればよかったですのではないかと私は思ったところでございます。

事故等がないような大会運営を目指していただきたいところでございますし、10月の土曜日、日曜日というのは各地区の催物であったり、防災訓練やら戦没者追悼式と、毎週のように土曜日、日曜日に日程入っている中で、職員の方も相当苦勞されて段取りされているような姿をお見受けするに当たり、前もっての段取りが全てでないかなと私自身は思っております。

2番目の質問でございますが、事前の打合せ等々の中で、交差点の交通整理の課題や大会関係者の協力者も、それを業務委託している業者の方々の役割など、注意事項などを詳細に説明して地図等でも案内できるような体制があれば、スムーズな運営ができるのではないかなと思ったところでございます。

その次の週ですね、高校駅伝の大会がありました。そこには、一つ一つの交差点に、例えば、これは、一生懸命走っている人が何時から何時まで何区の人が何時頃通るといった詳細に書かれた地図に、こう誘導してくださいみたいなことがそれぞれの交通安全協会の人にも渡されておりましたので、非常に見づらく分かりづらかったんですけども、これもあれば大変ありがたいななんていうことを私自身も思ったところでございますので、2番目の質問について、注意事項などを詳細にできればなと思ったので、発言させていただきました。その辺について課長のお考えをお聞きしたいと思います。

○内谷邦彦議長 菊地千賀健康スポーツ課長。

○菊地千賀健康スポーツ課長 2回にわたる実行委員会を開催し、委員の皆様からご要望やご意見、ご指摘をいただき、情報を共有させていた

だいたところでは、大会の実施に当たっては、誘導員配置の計画を警察署に申請し、許可が出た後、警察署と所管課と数回の協議を行っております。

交差点の交通整理は警察署員となり、誘導員は、配置計画に基づき各地区の交通安全協会の支部長様を通じて、当日、担当される方をお願いしていただくこととなります。また、委託している警備会社は、113名の配置箇所において警備業務に当たり、交通誘導、ランナー、歩行者の安全確保を担っていただいたところでは、平野地区には、特にコースが増えておりますので、今年度は配慮が足りない部分でありましたが、来年度は、配置計画に加えて、交差点など個別箇所の対応について担当スタッフにマニュアルを配付するなど、誘導方法の徹底に努めてまいります。

○内谷邦彦議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 ぜひそのようにお願いしたいと思いますし、誰が誘導員でそこに来るか分からなくて、毎年同じ人が来るわけではないと思いますので、ぜひそういうふうなマニュアルも一緒にあって、1キロとか4キロ、2キロですか、それぞれコースが新たに設定されたと思いますので、その辺も含めて徹底してやっていただきたいものだなと思って発言をさせていただきました。

さらには、非常にいい感想がいっぱいRUNNETに載っているんですね。市民の方の応援がうれしかったとか、アットホームな雰囲気の中で思い出に残るレースができたとか、初心者の方にもすごくありがたかったとか、途中にある、エイドステーションというんですね、水とか何か食べ物があるところにはシャインマスクット等があって、大変おいしかったと。さらには、ゴールした後は芋煮とおにぎりが大変おいしかったとか、非常にいい感想等が載っております。これはぜひ大事にさせていただきたい

ものだと思いますし、その後も、昨日の鈴木富美子議員からもございましたが、せっかく長井市に来ていただいたということでありますので、関係・交流人口にも寄与している事業だと思っておりますので、市民の方にもいま一度理解いただけるようなマラソン大会になっていただきたいなと思います。

私、何年か前に、地元のミニデイサービスに講師として呼ばれたときに、何もそんな大きなことを申し上げるときではなかったんですけども、マラソン大会の当日のプラザの前の通行止めをやめてくださいとかって言う高齢者の方について、非常に私も、そんなこと言われてもと思いましたが、ぜひ市民に理解されるような大会であってほしいと思いますし、見る限りは、本当に沿道の応援がうれしかったという声が多くの方から寄せられている現状を見ると、非常にいいんだなと思いつつも、市民も選手の方にも喜んでもらえるような大会にしていきたいということで思ったところです。市民への周知、もちろん市報等であると思いますが、そのほかにもいろんな形で周知されていると思いますが、市民からも喜んでいただけるような大会になってほしいと思うもので、発言させていただきました。

来年度もこのような形になるかどうかですけども、いろいろ検討されていると思いますが、ぜひ課題などをもう一回整理していただいて来年度に向けて取り組んでいただきたいと思いますが、課長からは、特に来年度の課題をもう一度お願いしたいと思います。よろしいですか。

○内谷邦彦議長 菊地千賀健康スポーツ課長。

○菊地千賀健康スポーツ課長 お答えいたします。

今回の大会は、参加者数が1,000人を超える大会となりましたが、短距離部分の市民の大会への参加が少ないため、大会の盛り上がりには欠けるようなところがあったように思っております。また、これまでにはないコース上の交通渋

滞や駐車場の不足を確認したところでございます。

今年度は、リニューアルから初めての大会だったということもあり、課題も多く、来年度以降、改善が必要な点を確認することができました。例えば交通渋滞であれば、手前で、この先、渋滞がありますとか、この先、迂回路ありとか、そういった事前告知によって多少の渋滞は回避できるのかなと思っております。駐車場については、事前に駐車場利用者を把握することで必要な台数分を準備することが可能ですし、駐車場を割り振ることもできると思います。

まず、安心・安全で多くの市民の方々に参加していただき、満足度の高い大会運営を行うため、多くのランナーが参加する山形市、米沢市、あとは寒河江市などの大会運営についてのノウハウをお聞きしながら、開催規模に即した対応の検討を行ってまいります。また、国内外から招待選手を招聘してきた経過もあり、海外からの一般申込みも増えつつあります。競技面、国際交流の双方から、長井マラソンのさらなる認知度向上を図ってまいりたいと思っております。

○内谷邦彦議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 招待選手も含めて盛り上がりを持ってやりたいなと私も思っておりますし、市民の参加というのも含めてもう少しあればというような思いでもあります。

大会の運営にも、多くの職員の方、ボランティアの方であったり、もちろん警察や交通安全協会の方、たくさんの方が携わっていて、その方々が大会を支えていらっしゃるんだということを十分認識するところでございますし、せっかく長井においでいただいたのであれば、長井を満喫して帰っていただきたいという思いが私自身もありますし、それが市民に還元されるようなイベントであってほしいと思っております。

これから長井マラソンを充実したものにして

いくためにも、事前の打合せであったり、市民へのPRなど、マラソンでつながる交流なども含めて長井市が活性化できるような大会であってほしいと願うものでありますので、ぜひ市長からは、市民もマラソンに来ていただいた方もよかったと言ってもらえるような大会にしていただきたいと思っておりますので、その辺も含めた交流人口の拡大等も含めてお考えをお聞きしたいと思っております。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津議員からは、長井マラソンをより充実して、市民の参加も含めて市民みんなで楽しめる大会にというようなご提案をいただきました。ありがとうございます。

長井の場合は、フルマラソンを、前議員というか、元議員の蒲生光男議員、元議長が仲間と共に提唱されて、トライアスロン、それから長井マラソン、県内で先駆けてやってこられました。そして長井マラソン大会は、もう三十五、六回になるわけですけども、今から大体10年前ぐらいに、なかなかみんな高齢化になって自分たちだけでできないので、市のほうにも協力の依頼があり、以降、五、六年前からは長井市が主体となってやってきたわけでございます。

一方で、白つつじマラソン大会については、これは春やってきたということで、課長のほうから、今年から一緒になったということなんですけど、実は白つつじマラソン大会はコロナのときから開催はやめておまして、コロナの影響などもあって、町なかをファミリーランしたりとか、いろいろな試みをしていただきました。今回は、長井マラソン大会の中に白つつじ市民マラソン大会の要素も入れてということで、今年に限ったわけじゃないですが、二、三年いろいろ模索いただいたんですが、議員の感想っていいですか、ご意見でもあったように、少し市民の参加が少な過ぎたと、数十名ですね、三つのコース合わせて100人ぐらいですから、ちょ

っとこの辺のところを改善しなきゃいけないんじゃないかなというのが課題でございます。

それで、多分13年か14年前ぐらいに、もっと前かな、16年ぐらい前に、当時の体育協会、陸上競技協会の皆様などを中心に、吉田先生っていいですかね、吉田会長などからも音頭取っていただいて、駅伝の高校駅伝のまずは東北大会を誘致いただいたんですね。これ2年に1回でございました。当時は岩手の大船渡市と長井市、交互だったんですね。

長井は、その当時、陸上競技場なくて、陸上競技場も造ってもらえたらななんていうことで、その後、造ったりもして、それに加えて、今度、長井のコースが非常に安全だと、それだけボランティアの人とか警察もきちっと管理していただいているんで、今度は高校の山形県の駅伝が毎年あるんですね。そこに白つつじマラソン大会ということで、ちょっとなかなか大変じゃないというような警察からのお話、どうあったか、私、直接聞いてないんですが、そんなことから、一本化したほうがむしろいいんじゃないかということで、コロナを機に、その後いろいろ模索してきました。

まだ今後どうするかは、先ほど菊地課長からあったように、例えば市民マラソンで考えた場合、規模が違うわけですね。うちは今年100人、あと、マラソンとハーフに出た人も含めて多分二、三百人ぐらいだと思うんですが、ほかのところは、東根のさくらんぼマラソン大会に至っては、もう一万四、五千人ですよ。あと、つい最近から始めた山形まるごとマラソンだって、もう六、七千人とか、あと、寒河江とか、この辺もそうですよね。白鷹とか飯豊より実はぐっと少ないわけです、長井のマラソン。それでマラソンのまちだって言っても、やはりなかなか盛り上がりえないだろうと。

だから今回は、地方創生の制度を活用して長井マラソンも今年から3年間でいろいろ充実さ

せようということで、テレビCMのスポットなども、市民に知ってもらおうと、県民ももちろんですが、そんなこととか、あとは、当日、去年まではかなりドライバーの人に怒られたんだそうですよ。誘導員なんかしていると、何だ、何やってんだみたいな、止めると。

それで、事前告知とか、あと、いついつありますよということを事前にテレビCMとかいろんなツールでやったんですが、そういうことと、あとは、梅津議員にも大変失礼いたしましたけれども、新たに地区の交通安全協会の役員として関わっていただく人も多いわけで、そういった方々に対するきめ細かな配慮が足りなかったとか、ご協力いただくわけですから、ボランティアでね。ですから、その辺のところを振り返りながら来年はよりよい大会にしたいと思います。置賜生涯学習プラザで、フルマラソンとハーフマラソンした上に、市民ランはちょっと難しいんじゃないかと。

したがって、全く違うコースを同じ日にするか、もしくは、警察のほうにご協力いただいて、違う時期に市民向けのマラソンを、できれば最初は3,000人ぐらいからスタートして、少なくとも五、六千人ぐらいの規模でマラソンをやったり、あとは、駅伝も、これできるかどうかですが、各コミセン対抗の駅伝とか、そういうのも面白いんじゃないかなと思っていますが、この辺はグラウンドだけでは完結しないので、道路をご協力いただくとしたら、幅広いボランティアの皆さん、陸上競技協会の皆さんのご協力と警察の協力も必要なので、このところは、ぜひ来年度あたり充実させるように考えていきたいと思っていますので、引き続きご助言などいただければと思います。

なお、何年前ですかね、4年前にタンザニアのイカンガー選手からは、ぜひ長井マラソンを国際マラソンにしてほしいと言われたんですが、まずはスポンサーつけなきゃいけないので、こ

れは大変な作業ですので、その辺も目標には掲げていますが、いずれ絞ってやっていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。ありがとうございました。

○内谷邦彦議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 山積するとか、いろんな課題が実施したことによってあったと思えますので、ぜひそれを来年に生かしていただければなと思っております。

私、一つうれしかったのは、変なおじさんに声かけられたななんていうコメントは載ってないんですけども、交通安全協会の格好をしながら、走っている方々の中に、縫いぐるみを着ていらっしゃる人とか、ナースの格好した、多分、男性かどうか分からない、速いですよね、スピードがあつて。

あとは、ばか殿の格好をした方であるとか、ドラえものの縫いぐるみを着て、カメラとか、スマホを向けると、挨拶をととか、相手も喜んでいただいているとか、楽しみながら皆さんお見えになって来てらっしゃるんだなということの一つは感じますし、応援するほうでも、ああいう方々がいるというのは楽しいなと思っておりますし、真面目に記録を持って頑張ろうって一生懸命走ってらっしゃる方々も当然いらしたわけで、そういう方々の幅広い参加が市民にも納得いただけるとか、喜んでいただけるような催しではないかなと思っておりますので、安全で楽しい、それも市民にも理解されるような今後大会になっていただきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思えます。ありがとうございました。

続きまして、2問目の質問に移らせていただきたいと思います。

11月の14日でした。長井市の学校教育研究所による学校研究発表会ということで、私、文教常任委員でありましたので、豊田小学校のほうに参加させていただきました。久しぶりのとい

うか、毎年やっていると思いますが、なかなか参加できなくて、たまたま既にいつもより早く稲刈りも私、終わっておりましたので、存分に時間を使わせていただいて参加させていただきました。

すばらしいなと思ったことがありました。まず、校長先生、当時、私、お世話になっている頃まだ平野小学校の教頭先生だった渡部校長先生がご挨拶の中で、自分で考え、自分で決めて表現する子どもたちを育てていくんだという、そもそも私たちが学校で習っていたときとは全然違うなということをすごく感じましたし、何年か前にも中学校の発表会に参加したときよりも、さらに、主体は子供で、個々に個別最適な学びという言葉が耳に残るような挨拶の中で、一生懸命学校も先生方も変わられているんだなということをすごく感じ取った研究発表会だったと思います。

校長先生の挨拶をちょっと読ませていただくと、研究の主題に迫るために、選択、試行錯誤、振り返りをキーワードに授業づくりに取り組んでまいりましたと。主語は子供です。まず試してみる、子供たちの考えを聞いて受け止める、そしてやり直してみる、そうした具体的な行動の積み重ねを子供たちの試行錯誤する姿と例え、何ができるか、何ができるようになったかを、どこでつまづいたかを、次はどうしたいかの視点で振り返る過程を通して、子供自身が考え、深まり、学びを自覚して意味づけていく授業を私たちは目指していますと。

全然大昔の教育とは全く違う、みんなで教室づくりを先生と共にやっていくんだというのを受け止められることのご挨拶が最初あって、授業参観というか、みたいな形で先生方がたくさんいる中で私も拝見させていただいて、全然長井市の教育も変わったなんだなということを実感したところでした。

そのことについて、まず、子供たちの目指す

姿、自分で考え、表現することから始まる学びということはどう考えてらっしゃるかも含めて教育長からお伺いしたいと思います。

○内谷邦彦議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 まず初めに、文教常任委員の皆様におかれましては、豊田小学校、それから伊佐沢小学校の2校で行いました学校研究発表会に参加いただき、本当にありがとうございます。梅津議員、そして勝見議員には、その後の講演まで聞いていただきました。本当にありがとうございます。

特に学校とか教育というのは、子供の姿とか教師の姿とか、それから学校の姿、これらを肌で感じるというのが非常に大事だなと思います。そういった肌感を大事にしているということを考えてときに、今回こうやって見ていただいたこと、これは貴重な機会だと思います。

また、今回参観して感じていただいたこと、これらを共有し、意見交換しながら、長井の心を育む教育行政を一緒につくっていく、そのようなことも改めて今のお話からも感じたところですので、これからも、ぜひ稲刈りを調整しつつ参加いただければありがたいと思います。

さて、豊田小学校では、課題を解決する力を身につけ、学びを実感できる子供の育成をテーマに国語と算数の授業、それから伊佐沢小学校では、外国語活動におけるコミュニケーション能力の育成、楽しみながら外国語を学ぶをテーマに、小学校1年生から6年生までの外国語活動の授業を見ていただいたところです。

議員ご案内のとおり、学校研究発表会は毎年行っております。第3期の長井市教育振興計画等を踏まえつつ、学校では、それぞれの実態に応じて目指す子供像を設定しております。しかし、その根幹にあるのは、今、文部科学省から示されている生きる力の育成、そして、その生きる力の知の側面としての学力の育成であります。特にこの学力の育成については、基礎的な

知識、技能を習得し、それを活用して自分で考え、判断し、表現する力と、様々な課題に対して主体的に学習に取り組む姿、意欲、態度、これを目指しております。豊田小学校でもこれを踏まえて、特に自分で見通しを立てて、本当に試行錯誤しながら課題を解決しようとする子供を目指す子供像を掲げて取り組んできたところ

です。授業と、それから講師の講話から、議員も、自分の頃の授業と随分違ったと、この戸惑いが今回のご質問に全て通じているなどと思います。核心は、一斉指導から一人一人への転換であります。実は、この転換は、もう学習指導要領が変わって10年になりますが、なかなか大変です。一朝一夕にはいかないなどと思います。教師も、また試行錯誤の連続であります。私たちというのは、どっちかという、みんなでそろえて、それで勉強していくという授業を受け、また、今の先生、特にベテランの先生は、そういったそろえるという成功体験で積み重ねてきたのが今のベテランの先生ですので、その発想を転換するというのは、これは本当に容易ならざるものだなどと思います。

ただ、今、日本が抱えているこの激動の社会の中での、一人一人が自分の意思を持って生涯学んでいくという学びを確立しつつ、そのように自立した個々が、今度この子供たちが確かな社会をつくっていくそういう人を育てるという必要があるという、そういった切迫した課題を持っているところもあります。もちろん、これ、これまでの授業を否定しているわけではなくて、読み書き算、この基本的な知識、技能、こういった鍛える授業はどうしても必要ですし、大切だと思えます。これらも基本としながら、自分で課題を見つけ、自分で課題を解決する、この力を育てていくことになると思えます。これらの調和の取れた授業をどう仕組んでいくのか、これは、これまでも、そしてこれからも学校の

先生方はこの課題に向けて挑戦しているところであります。

○内谷邦彦議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 変わろうとしている教育を逃げずにとというか、正面から受け止めて校長先生が先頭に立ってやっている姿というのは、すごいなと思ったところでございますし、それを担任の先生方が一生懸命理解しながら、自分で授業をつくっていく、みんなで作るというんでしょうかね、子供たちと一緒にみんなで作る、先生が一方向的に教えるのではなくて、悩んでいるところに寄り添いながら、一人一人、個別最適などという言葉のとおりを実践していこうとしている姿がすごく見受けられましたし、当然若い先生方が悩みながら、いろんな題材を取り出しながら授業をつくっていく姿というのは、すごいなと感じたところでございますし、それを指導教諭の方が教室内で授業が終わった後にアドバイスしている、まさに適時適切などいうか、それぞれのアドバイスもやはり指導教諭というのは全然違うんだなと思ったところでございますし、子供たちがそれを受け止めながらも進んでいるというのを実感できた学校研究発表会だったと思っておりますし、その中で、先生方に求められている姿、子供たちが自分で学びをつくっていく力を信じて支えていける存在になるという、先生方の、今までは、教壇に立って、いいかって、分かっか、分かんねえかみたいなんではなくて、子供たちと一緒に進めていく、一緒に学んで教室をつくっていく、子供たち同士で、分からない子に、どこでつまづいているんだかも含めてお互い教え合っていくみたいな姿をつくり出していくのに、物すごく大変なんだろうなと思いつつ見ていたところでございます。

先生に求められている姿を実践するに当たり、教室づくりを先生方が工夫してやっている姿が非常に感動的だったなと私自身も思っております。

すし、先生方が皆さんそうであってほしいなと思うんですが、その辺の先生の姿について、教育長はどういうふうに考えているか等、今の現状も踏まえて教えていただければと思います。

○内谷邦彦議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 まず、大変褒めていただいて、ありがとうございます。ぜひ伝えたいと思います。

今のご質問ですけれども、令和3年度に文部科学省から、目指す子供と、それから教師の在り方についての答申が出されております。ちょっとこれをご紹介したいと思います。

答申の中で、こんなふうにかかれていています。急激に変化する時代の中で育むべき資質、能力として、一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会のつくり手となることができるようにする、これが必要であると示されております。まさに今これが大事なのだなと感じております。

そして、この学びを担う教師の姿として、次のように示されております。1つ目、変化を前向きに受け止め、生涯を通じて学び続ける教師、2つ目、子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たす教師の姿、そして3つ目は、子供の主体的な学びを支援する、先ほど議員からもありました、伴走者としての能力も備えている教師などが示されているところであります。

ご質問にもありますように、子供たちが自分で学びをつくっていく力を信じながら支える存在になる、それは、これまでの教えてそろえる指導から、子供一人一人の可能性を引き出す、伸ばすという伴走者としての教師の在り方についてさらに研修が必要であります。主体的・対話的で深い学びと言われていますが、これらを実現するために、豊田小学校はじめ長井市全ての

の学校全てにおいてこのような研究がなされているところです。

さて、長井市の子供たちの状況についても触れさせていただきます。

今年度の全国学力・学習状況調査で、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたかという質問紙があります。これに対して、当てはまる、どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合ですけれども、県82%、全国80%に比して、小学校では87.3%、それから中学校では、県78.8%、全国77.6%に比して89.6%、自分ではそれだけ頑張っ前向きに取り組んでいるよという答えがありました。

加えてですが、長井市の学校ですが、学校に行くのが楽しいと思いますかという質問に対して、これも、当てはまる、どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒ですが、小学生、県で87.1%、全国86.5%に対して89.5%で、昨年度は86.3%ですので、3ポイント伸びております。それから中学校では、県86.7%、全国86.1%に比して94.1%、昨年度が87.3%なので、うれしいです、大変喜んでいるところです。こういった子供たちの意欲を受け止めながら、今後とも研修や指導、助言等を通して学校と一緒に研究を深めていく所存ですので、また応援のほうもよろしく願います。

○内谷邦彦議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 子供たちの受け止め方も非常にいいということですので、併せて学力もひとしくついてきていただけると、ありがたいなと思っております。

変わりゆく教育というか、子供たちの最適な学びということに特化しながら、自分たちがしていくんだという、学んでいくんだという姿勢を子供たちに促しながら、教室づくりをしていく先生方の姿というか、すごく大変なんだろうなということを思ったところでございます。先生も悩みながら進んでいることと思いますし、

人生、悩まない人はいないわけで、いろんな面で悩みながら進んでいかなければならない中で、自分は自分としての答えを出していくというようなことを子供たち自身が思っていかなきゃいけないというような姿を、先生が引き出してあげなきゃいけないというような教育の仕方だと思います。生き生きと子供たちが学ぶ姿を目にするに、なかなかいいものだなと思って見ていたところがございます。

それにつけても、先生方が、今のICTの活用であったり、個別最適な学びをそれぞれがいろんな形で勉強しながらやっていくというようなところについては、先生方の負担も相当であるのではなかろうかと想像するわけです。得意な先生もいれば、そうでない先生もいると思うので、その辺について先生方がどのような考えでいるのか、先生方の指導力の発揮というのは、どのようにして学んでいくというか、先ほども永遠に、それは子供が違えば、皆さんそのとおりに、先生方も、その子その子に寄り添っての教育が最適だということを見いだしていかなければいけない教育が相当大変だと私自身は思っておりますし、そのことについて教育長がどのように思っているか、お考えをお聞きしたいと思います。

○内谷邦彦議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 ありがとうございます。本当大変だと私も感じております。特にベテランの先生、ICTについて得意なわけではない先生が多いのですが、うまくそこは、若手のICTが得意な先生と一緒にチームを組みつつ、かつ教材の深さというのは、やはりベテランの先生にかなうわけではないので、その部分をうまくコラボしながら、今チームとして研修を深めているなと思っております。先日、長井小学校でも研究会がありました。これは完全なICTを駆使した今の求めている授業もありますので、ぜひそのようなときも機会があれば、ご覧

いただければありがたいと思います。

実際に、授業準備から、それからICTを効果的に活用した授業づくり、さらに、学びを保障するための授業の在り方、教材の研究、一人一人の見取り、そういったもの、それから授業の準備、こういったものに非常に多くの時間が必要とされています。一方でですが、今、働き方改革ということで長時間労働も問題になっていますけども、この中のせめぎ合いで何か先生方って非常にはさまに立って苦しんでいるのも実情です。

先生方の負担ですけども、例えば小学校ですが、まず、数年前から、外国語、英語の授業が増えました。一人で10教科教えなきゃいけないわけです。さらに、こういったものも含めて、ICTとか情報モラルですとか、学校に求められるものが年々年々多くなっていると。その中で、しっかりと時間を取って子供たちに向けて授業準備に向けて学習準備の時間を保障するというのは非常に大事だと思いますし、これが、まず働き方改革の一番大事なところだと思います。

そういう意味では、先ほどちょっとお話ししましたが、働き方改革というのは、教職員の働きやすさ、働きがい、これを両立して自分の授業の指導力を磨く、そして、さらに、人間性や創造性を高めて、子供たちに効果的に教育活動を行うことができることが肝になっております。そういう意味で、これは、ぜひ地域の皆さん、保護者の皆さんともお話ししなきゃいけないのは、先ほどの非常に大きな授業の準備等々のために、先生が先生でなければできない業務、これに専念できるようにするというのが働き方改革の一番の趣旨です。そういう意味で、今年度、9月、文部科学省からも、このようなことでの業務の見直し等が3分類ということで示されているところです。

その中で、学校以外が担うべき業務です。こ

れで、例えば登下校の通学路における日常的な見守り、これは熊等の対応とか様々ここもあるんですが、それから地域学校協働活動の関係者との連絡調整、そういったものがあります。さらに、教師以外が積極的に参加してほしい業務ということで、例えば学校のプールですとか、体育館の使用設備の管理ですとか、校内清掃ですとか、そういうものもあります。さらに、教師の業務だけでも、負担軽減を何とかお願いしたいということで、例えば学校行事の準備、それから運営、伊佐沢小学校では地区と一緒にやっています。これは非常に大事な提言だと思います。そのようなこと、それから支援が必要な子供たち、家庭への対応等々が挙げられます。

これらについては、学校運営協議会、そして将来的にはスクールコミュニティの推進ということから、それぞれの立場で子供を伸ばす、そんな地域ができればいいなと私も考えておりますので、より一層のご理解と、それからご支援をお願いいたします。

○内谷邦彦議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 先生方も悩みながら、いろんなことを調整しながら子供たちと向き合っている姿を、ぜひ管理職であったり、教育長も含めてサポートしていただければと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

今、振り返ると、私、子供の頃から体育だけは得意だったんだけど、その次に、ふっと思い出すと、外掃除というのがあったんですね。一番得意なのは、どぶさらい、誰よりも早く一輪車を持ってきて、それを当時の担任の先生に褒められたことがあります。3人で、誰よりも早くなって。今もって、そのどぶさらい、川はらいを中心に努力しながら頑張っておりますので、ぜひ子供たちに、いろんな機会や得意なことを伸ばせていただけるような、それぞれの子供たちの思いに寄り添った教育を今後とも進め

ていただければと思ひますので、どうぞよろしくお願ひします。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○内谷邦彦議長 以上で一般質問は全部終了いたしました。

## 散 会

○内谷邦彦議長 本日はこれをもって散会いたします。

ご協力ありがとうございました。

午後 1時50分 散会